



シンポジウム会場

前半のシンポジウムは、『住まい』をテーマに県内を代表する三法人からご発言をいただき、後半の講演では、自閉症の息子さん、うつ病の奥様と一緒に生活しながら、家庭と仕事を両立した元東レ経営研究所社長佐々木常夫氏の講演をいただきました。

平成31年2月3日(日)、千葉県知的障害者福祉協会主催による自立支援セミナーが、千葉県教育会館大ホールにおいて開催されました。第15回目に当たる今年のテーマは『知的障害者の豊かな住まいの支援と課題』。主催者を代表して千葉県知的障害者福祉協会里見会長からご挨拶をいただき、引き続き前半のシンポジウム、後半の講演と二部に分かれて行われました。

第15回自立支援セミナー2019 知的障害者の豊かな住まいの支援と課題

於 千葉県教育会館大ホール

開会挨拶

千葉県知的障害者福祉協会

会長 里見 吉英 氏

このセミナーも15回目を迎えました。このセミナーは措置制度の改変に伴い、入所施設の解体を阻止しなければならぬというところから始まりました。制度の変遷に伴い、利用者・ご家族・事業者が振り回された15年間でしたが、このセミナーをきっかけに、皆さんと考える場を持ち続けられたらと思っています。

人材確保、介護保険への切り替え期となる65歳問題、利用日数に制限が設けられる短期入所の180日問題と問題は山積ですが、協会でも行政と連携を取りながら解決に向けて努力して行きます。

現在の千葉県の一番の問題は、袖ヶ浦福祉センターの改革です。5年前の不祥事発覚後、問題解決に向けて取組んで来ていますが、これからも協会上げて利用者の不利益にならないよう議論を尽くしたいと思っています。

千葉 あ い ご

二〇一九年三月号

第71号 (二〇一九年三月号)

発行日 平成三十一(二〇一九)年三月二十日

発行者 里見吉英

編集者 畠山正昭・菅谷大輔・秋山直樹

千葉県知的障害者福祉協会

(本部)

千葉市中央区中央四一三ー五 カンガルービル四F B

(事務局)

HP <http://www.chibachitaki.com/>

船橋市金堀町四九九ー一 大久保学園内
TEL 〇四七(四五七)二四八ー一

目次

- 第15回自立支援セミナー2019.....①③
- 平成30年度施設長研修会.....④⑤
- 第46回手をつなぐ作品展.....⑤
- 新事業所紹介.....⑥
- わが施設の自慢・アピールポイント②.....⑦
- 千葉知協トピックス.....⑧
- 事務局便り・編集後記.....⑨

シンポジウム

『人』が『主』人公になる『住』まいを目指して

コーディネーター

大久保学園 施設長 千日 清 氏

様々なテーマを取り上げて来たこのセミナーですが、私達は、この15年間、本当に本人を主人公とした福祉を展開して来たかという原点に立ち返り、県内でも個性豊かで明確なコンセプトを持って入所施設を運営されている三つの法人の皆様にお話を伺います。

「高齢化とグループホーム」

野栄福祉会 しおさいホーム

施設長 佐久間 智 氏

野栄福祉会は、匝瑳市にあり、海岸から70mくらいの所に位置しています。入所施設2つと7つのグループホームを運営しています。

個人立という形で昭和42年に開設、袖ヶ浦福祉センター更生園に続く県内2番目の成人の入所施設です。しおさいホームは、高齢化に特化しているとよく言われますが、開設当初から入所された方がそのまま高齢化を迎えているのが実情です。

課題はやはり高齢化、そして医療面です。胸部大動脈瘤で、破裂した場合即死だと言われている人がいます。その方は、ご家族とも「何か

あっても救急車を呼ばずにドクターの指示に従う」と相談しています。施設を望む人、ホームにいたい人、老人ホームに移りたい人、利用者の生活は様々ですが、それを支えていく覚悟が必要だと思います。

「通過施設とグループホーム」

まつど育成会 統括施設長

早坂 裕実子 氏

当法人はセミナーと同一年で、まさに制度に翻弄されながら歩んで来ました。県内で最後に認可を受けた入所更生施設です。育成会で施設を作るにあたり、これから住み方が多様化していくであろうことを想定し、入所施設は一定期間の利用と考えました。

入所施設開設後2年位を経て、グループホームを開設しました。そんな折に「ホームを建てるから運営して」という保護者さんからの申し出がありました。住む人を決めてから建てるという形を取り、アセスメントを徹底してホームを建てました。今、お部屋についてはご本人とご家族の意向で進めていくというスケルトン方式を考えています。

暮らしは、一人ひとりが作り出し、個人が営んでいくものだと思います。暮らし方が違って当然ですし、それをきちんと認められる私達がいなくてはなりません。どんな暮らし方をするのか問題で、ホームが良いとか施設が良いと言った議論は、本人不在で不毛だと思っています。

「入所施設の住まいの充実」

みつぎ会 上総喜望の郷

施設長 中村 敏久 氏

当施設は、平成3年に木更津市に開設しました。当初は入所更生施設と括られていましたので、制度に沿って指導訓練を一生懸命やらせていただきました。

私達の施設はポツンと一軒家なので、鍵を使用しません。その成果もあって、皆さんよく自由に外出されていました。

施設が20年経ち、利用者の皆さんも高齢化が進んで来ましたので、エレベーターの設置や居室の個室化を進めました。

施設内でも怪我や病気はありますし、いずれは死も訪れます。医療機関で抑制が必要になり、そのままお亡くなりになるのではとても忍びないものがあり、ご家族やドクターと相談して施設で看取りをするようにしました。

入所当初、施設は大嫌いと言っていた末期がんの利用者さんが、施設に、自分の部屋に帰りたいと言ってくれました。支援して来た甲斐があったのかなと思いました。

出会い、寄り添い、見守るというのは法人の理念です。私達は、これからも出来ることを精一杯支援して行きたいと思っています。

千日：みなさんありがとうございます。では、まず65歳問題について、お話を伺いたいと思います。

佐久間：65歳問題に関しては、生活介護の分野では介護保険が優先となるのですが、法人内のこれまでの統計で、肺炎、嚥下機能の低下等で約半数の方が65歳までにお迎えが来られるという現実があります。施設内で看取る方も出て来ているのですが、ここで暮らしがよくなったとすべての人に思ってもらえるように支援して行きたいと思っています。

千日：医療的ケアの課題はいかがでしょう。

佐久間：都市部では、24時間対応可能な医療機関もあるでしょうが、私達の地域にはありません。夜中に亡くなっても、翌朝ドクターが来て死亡確認ということもありました。医療との連携はとても厳しいです。

千日：早坂さん、土地・建物の保護者からの提



シンポジストの様子

供は、所有は法人となるのですか。

早坂：いえ、お借りしています。

千日：個人負担はどうなっていますか。

早坂：補助を抜いて、お一人3万円位です。

千日：住む人と相談してということですが、この方法

だとどんどん豪華になっていくのではないでしょうか。

早坂：そうとは思っていません。ご本人中心の暮らしを考えた時、みな同じ箱物で良いのかというこの方が疑問です。

千日：私も拝見したことがありますが、自分でも暮らししてみたいと思うようなとても素敵なホームです。強度行動障害の皆さんの受け入れの実績、あるいは工夫について教えて下さい。

早坂：現在ホームで受入れている人達は、充分なアセスメントから必要な支援を絞り込みました。施設自体はユニット式になっていきますので、今後増設できれば受入れがもっと可能になるかなと考えています。

佐久間：重度障害者加算10点以上の方が、のさか学園で60人中40人、しおさいでは60人中30人です。のさかでは15点以上の方も6、7人いるのですが、個室化していないので加算の対象外です。

中村：個室化・ユニット化しているので、強度行動障害の方も暮らせています。21名が加算をいただいています。

千日：袖ヶ浦福祉センターのサービスの提供が滞っている中、民間の受入れ努力を行政の皆さんにも知っていただきたいと思います。

最後は、今一番の課題である人材確保についてお聞かせ下さい。

佐久間：匝瑳市の人口は3万6千人位で、保育の方に人が取られる傾向にあります。ただ田舎なので、もともと働く場所が少ない分、定着して働いてもらえています。

早坂：松戸市は立地は良いのですが、その分大企業に流れてしまう傾向にあります。人はいるのですが、福祉に目を向ける人は少ないので、内定を出したら離さないようにあの手この手で工夫しています。

中村：求人に関しては特別なことはしていません。お陰様で定着率が良く、法人の理念でもある利用者も職員も仲間である、そうありたいとみんなで認識しあっています。

千日：人材確保については厳しいお答えが多く、これが全国的な実情なのかもしれません。

保護者の皆さんも施設に來られた時には、是非職員に一言「ご苦労さん」とお声を掛けて下さい。その一言が、明日への励みになります。お願い致します。

最後に、今日のテーマについて皆様より一言ずつお願い致します。

中村：入所施設にもいろいろな可能性があり、「こういうことも出来るんです」という提案が出來たら良いなと思っています。

早坂：私は、お一人お一人がどういう暮らし方をしていくのかということに重きを置いていきたいと思っています。日常の暮らしを大事にしていきたいと思っています。

佐久間：開設当初からご健在の方がいらっしゃいます。52年間です。この人の人生は野榮福祉会がすべて背負って來ました。最後にここで良かったなと思ってもらえたら幸せですし、そう思ってもらえるように頑張っていきたいと思っています。

千日：シンポジストの皆さんは、看取りの入っ

て來る高齢化の方が多い施設、グループホームへの地域移行を積極的に進めている施設、グループホームは持たないけれど、生活環境を整えることは入所施設でも出来るんだという施設の方達です。私達は、個人個人に寄り添う努力をし、これから利用者の皆さんを中心に据え、ご家族と連携を持ちながら進んで参りたいと思います。

講演

「私は仕事も家庭も決してあきらめない」

元東レ経営研究所

社長 佐々木 常夫 氏

私の家族は妻と長男次男長女の3人の子供達で、長男が自閉症です。長男は小学校でいじめにあいましたが、クラスの子に、自閉症や様々なハンディを持っている人がいること、彼らを支えていく必要性を話すと、その話を聞いた子ども達が助けてくれるようになりいじめがなくなりました。ところが、高校3年生の時、幻聴や暴力が見られるようになり精神科に入院しました。その後、状態が落ち着いた事もあり、施設の協力を得てアパートに一人暮らしをさせました。

金、土曜日は一緒に自宅で過ごし、日曜日に一緒にアパートに行つて一週間分の家事をしました。彼は本が大好きなのですが、読んだ本の内容を誰かに聴いてもらわないと安心できません。なので、彼が一週間に読んだ本の内容を聴く。それが日曜日の私の一番の仕事になりました。

妻は1984年ころから様々な病気で入退院を繰り返しており、2000年にうつ病と診断され、自殺未遂もありました。7時間半にも及ぶ大手術となった最後の自殺未遂は娘が見つけてくれたものでした。

妻の入院が多くなると、子供の食事、風呂、家事等は私が行うようになりました。この頃課長だった私はそれらを行う為に仕事の段取りを

娘の力は大きかったです。母親譲りの料理大好き人間、私の戦友です。

2003年、私は社長となっており、家にいられる時間も増えました。自分をサポートしてくれる人がいるという安心感からか、妻のうつ病も治って行きました。家族や仲間、たくさんの人の力を借りて仕事と家庭を両立させる事が出來たのです。

「嫌われる勇氣」の著者アドラーと対談したことがあります。私の考え方と似ています。「人はいつでも変わることが出来る。幸せになるのは簡単だ。ちよつと考え方を変えれば良い。縦ではなく、横で捉えなさい。相手をリスベクトしなさい。いいところを見つけなさい」。縦というのは上司と部下。親と子。私は、30歳の頃から自分より年上、年下に関係なく「さん」付けで呼んでいます。みんな良いところ、強い所を持つています。それを認めて、それをリスベクトして組織がうまくいくのではないかと思えます。それが仕事にとつても家庭にとつても大切なことなのです。

里見会長のご挨拶に始まり、シンポジウム、ご講演と盛り沢山の内容だったのですが、誌面の都合上止む無く割愛させていただいた部分があることを深くお詫び申し上げます。

社会福祉法人大久保学園

船橋市光風みどり園 施設長 齊藤 航二



講演 佐々木常夫氏

して計画的、効率的なやり方を徹底しました。しかし、それでも足りず、祖父母や隣の奥さん、周囲の色んな人の力をお借りしました。中でも当時小学校5年生の

平成30年度 施設長一泊研修会 於…鴨川グラランドホテル

平成31年1月22日(火)〜23日(水)の日程で、鴨川グラランドホテルにおいて、千葉県知的障害者福祉協会が主催する「平成30年度施設長研修」が開催されました。当日は170名を超える参加者が集まり、障害福祉の動向と最新の情報と感動の講演で充実した研修となりました。

1日目

研修会の冒頭、千葉県知的障害者福祉協会会長の里見吉英氏

から挨拶があり、千葉県社会福祉事業団が運営する袖ヶ浦福祉センターの検討委員会が設立され、既に1回目の検討会が終了したこと、協会からも委員として参加しており、運営を含めた、様々な視点から検討をしていくことが伝えられました。人材確保について、福祉分野だけの問題ではなく、もはや社会全体の問題であり、協会としても重要課題として位置づけるとともに、この仕事の魅力を幅広く発信し、次の担い手の確保に努めていきたいと話されました。



施設長研修会

また、65歳における利用サービス、短期入所利用日数についても触れられ、最後に、来年度グループホーム全国大会を千葉県が担当することについて、関係者の一致団結が不可欠であることと締め括られました。

講演1 「中央情勢と福祉協会の取り組みについて」

講師 日本知的障害者福祉協会

事務局長 末吉 孝徳氏

講演1では、末吉氏から中央情勢の最新情報、

協会としての取り組みについて講演していただきました。

①先般報道された障害者雇用について、雇用率の達成といった数字のみに重点を置くのではなく、障害者の働き方の選択肢を増やし、生きがいを持って働けるような障害者雇用施策、就労支援施策の実現に取組むよう強く望む声明文を協会として発表したこと。

②平成31年度障害福祉部予算案の概要では、予算案の総額が初めて2兆円を超えたこと。

③新たな処遇改善加算では、対象資格・職種、考慮すべき事項や事業所配分方法等の留意事項について。

④次期報酬改定に向けた検討課題では、サービスの質・指標を踏まえた報酬単位の設定。客観性、透明性の高い諸情報に基づく報酬改定について。

⑤サービス管理責任者・相談支援専門員の研修制度の見直しでは、サービス管理責任者の要件緩和、相談支援専門員の研修制度の見直しやスケジュール等、多岐にわたる内容を最新の情報や今後の展望を交えて詳細に説明していただきました。

講演2

「部下のやる気を引き出す『言葉の力』」

―スポーツ現場に学ぶペップトークとは―

講師 一般財団法人 日本ペップトーク普及協会

会長 岩崎 由純氏

講演2では、「部下のやる気を引き出す『言

葉の力』と題して、岩崎氏から講演をしていただきました。

ペップトークとは、もともとアメリカでスポーツの試合前に監督やコーチが選手を励ますために行っている短い激励のスピーチのことで、「pep」は英語で元氣・活氣・活力の意味があるとのこと。岩崎氏はアメリカ留学中に初めてペップトークを体験し、余りの感動に涙が止まらなかったと話されました。

ペップトークの特徴は、「短い」「分かりやすい」「肯定的な言葉を使う」「魂を揺さぶる」「人をその気にさせる」ことが大切であり、聞き手に成功をイメージさせることが重要であると力説されました。また、その為にはまず、互いにラポール＝信頼関係が構築されていることが前提とも話されました。

また、人は言葉を聞き、頭でイメージする為、聞き手がポジティブになる言葉を意図的に使用すること、その際、伝え方は優しくとは限らない、笑顔とも限らない、あくまで聞き手がポジティブになれるかが判断基準であること、そしてより具体的に伝えることが重要であるとも話されました。この他にも講演の中で印象に残る言葉が多数ありました。「今の若者を動かすのは命令ではなく説明である。理由を説明し、納得と理解を得ること。何をするのか具体的に示すことが大切である。」

また、リーダーの役割として、「言葉の力を磨くこと」「どんな言葉をどう言うか考えること」との言葉が心に響きました。

そして最後に動画が紹介され、10段の跳び箱が何回も跳べない幼稚園児に他の園児達が集まり「できる!できる!できる!」と大合唱で応援すると、その直後、見事に跳び越えました。その園児の母は難病に罹り、わが子の姿に病と向き合う覚悟を固めたといいます。言葉の力が不可能を可能にした感動に、参加者の涙が止まりませんでした。

2日目

講演3

「千葉県障害福祉の動向と来年度予算要望の回答」

講師 千葉県健康福祉部障害福祉事業課

課長 岡田 慎太郎 氏

講演3では、平成31年度予算等要望書に対する回答について岡田氏より講演していただきました。冒頭に来年度の新事業として発達障害者支援機能の強化を図るため、発達障害のある方に対する支援を総合的に行う地域支援マネージャーを配置し、地域での支援機能の強化を図ること。また、行動障害者に対する支援の質の向上を図るため、県が実施した研修を修了した者を県内の事業所等へ派遣し、助言等を新たな試みとして行うこと。

「千葉県袖ヶ浦福祉センター検討会議」について、今後も定期的に開催し、平成31年度のできるだけ早い時期に施設整備や運営形態等の対応方針を明確にしたいとの説明がありました。平成31年度予算等要望書に対する回答として、「医療費助成制度対象者の拡充」では、本制度は国が取り組むべき事項であり、他都道府県とも連携を強化していくこと。「強度行動障害者の施設入所、短期入所受入れへの報酬加算制度の創設」については、千葉県袖ヶ浦福祉センター検討会議において検討していくこと。

「千葉県における福祉人材確保・定着の仕組みについて」現行の千葉県福祉人材確保・定着推進方針を来年度も引き続き推進方針を策定する見込みであり、今後も検討していくこと。

「障害児入所施設関係の県単措置費・給付費の改善について」まずは、現状を十分に分析し、他都道府県とも意見交換を交え、検討していくこと。

また、今後も県単独加算等を含め、時代に合った予算の確保に努めていくと述べられました。

講演4

「社会福祉法人と消費税軽減税率制度」

講師 坂本会計事務所

所長 坂本 信行 氏

講演4では、社会福祉法人と消費税軽減税率制度と題して、坂本氏、中村両氏より講演していただきました。

冒頭に来年度10月1日から消費税率が8%から10%に引き上げられると同時に、消費税の軽減税率制度が実施されることについて説明がありました。

この軽減税率制度とは、標準税率（10%）と軽減税率（8%）の2段階の税率が導入され、軽減税率の対象品目は酒類・外食を除く飲食料品、週2回以上発行される新聞（定期購読契約に基づくもの）になること。

講演の中では、消費税の仕組みや背景となっている政策について詳細に説明していただきました。

また、2023年10月から適格請求書等保存方式（インボイス制度）が導入され、請求書の記載事項や発行・交付が厳格に義務付けられるとのこと。

我々は、まず制度を理解し、その上で、様々な状況を想定しておかなければならないことを認識しました。

今回、2日間の研修で、制度や環境の変化の中でも一つ一つを丁寧に肅々と当てること。また、その一つ一つが、全て利用者に繋がることを忘れてはいけなさと再認識しました。

最後に、今回ご多忙中にもかかわらず、ご登壇いただいた講師の皆様方へ心より御礼申し上げます。

社会福祉法人清輝会 カマロードの里

管理者 土屋 貢

第46回 手をつなぐ作品展



今年も2月に第46回手をつなぐ作品展が3つの地区にて開催されました。どの地区も初日から多くのお客様に来場して頂き展示・即売活動を通して、開催目的である知的障害者への理解と関心を持って頂くことが出来たと思います。最後に毎年、会場を提供して頂いているイオン様及びユニモ様をはじめ、各施設、関係者の皆様のご協力に紙面を借りてお礼申し上げます。

北部地区

場所 イオンモール八千代緑が丘店
日時 平成31年2月23日～24日
売上 134万円 15事業所参加

中部地区

場所 ユニモちはら台店
日時 平成31年2月15日～18日
売上 113万円 19事業所参加

南部地区

場所 イオンモール富津店
日時 平成31年2月22日～24日
売上 106万円 17事業所参加

千葉県知的障害者福祉協会手をつなぐ作品展事務局

北部地区事務局 大久保学園 新井 弘輝

中部地区事務局 中野学園 西山 克也

南部地区事務局 ふる里学舎 伊東伸之輔

新事業所紹介

社会福祉法人 翡翠会

すえひろ工房やまぶき

地域と共に生きる

社会福祉法人翡翠会では、平成13年開所「山武みどり学園」以来、「山武青い鳥工房」「カサ・ロサード（バラ色の家）」など、「色」に係わる名前がつけられています。これまで、当法人は大網白里市内で事業展開してきましたが、以前からのご要望にお応えし、法人理念「地域と共に生きる」実現のため、平成30年4月に山武市松尾町にて、山吹色をテーマカラーとした事業所「すえひろ工房やまぶき」（定員20名）を開所しました。（相談支援事業所「山武みどり学園松尾」併設）

山武市周辺は、就労系の事業所が充実しています。しかしB型事業所の利用が難しい方や、「働きたいけど一歩踏み出す勇気が出ない」という方々の受け皿となるよう、生活介護事業所の開所に至りました。

コンセプトは「はたらくよろこびをあなた



すえひろ工房やまぶき

に」。重度の利用者様であっても、自分で働いてお給料をもらうという喜びを感じて頂けるよう支援しています。また、ご自身で稼いだお給料で買い物する機会も設けています。仕事内容は内職作業を中心に、箱折・



やる気、元気、やまぶきでの作業

個包装作業、工業系部品の組立などを行っています。一人ひとり得意不得意があるため、皆で作業工程を分担し、最終的に一つの仕事として成り立つよう工夫しています。

2年目の今年は、裏テーマの「やる気・元気・やまぶき」をさらに追求していきます。時には真面目に、時には仕事も忘れて大笑いしてしまうような場面をたくさん作り、利用者様にとって大切な場所となるよう努めていきます。

施設長 大越 将司

社会福祉法人 春濤会 こども発達支援センターやわた

福祉型児童発達支援センター



やわた外観

「こども発達支援センターやわた」は、社会福祉法人春濤会が運営する福祉型児童発達支援センターです。発達に躓きや偏りのあるお子さんを対象に、日常生活における基本的動作の訓練、集団への適応訓練など、必要な療育を行い、心身の健やかな発達と成長を支援しています。また、地域で暮らしているお子



電車ごっこで楽しく遊ぶ

さんやご家族の育児や発達に関する相談をお受けしたり、関係機関との連携を図るなど、お子さん達が家庭や地域で健やかに育つための支援も行っています。地域貢献公益事業として「おもちゃ図書館」も年に5回開催し、地域にお住まいの乳幼児のお子さんご家族を対象に、楽しく遊んだり、交流できる場を提供しています。

主事業である、児童発達支援「つくしんぼ教室」には、毎日2、3歳〜6歳までのお子さんを通ってきています。朝の会から始まり、午前中にサーキット運動や教材学習、散歩や中庭遊び、制作活動など、様々な活動を組み合わせて取り組んでいます。お子さん達が楽しみにしている給食を食べた後は、お昼寝をするお子さんと、活動に参加するお子さんとに分かれます。午後のグループワークでは、お友達と一緒に取り組む活動や、順番を待つなどのルールのある活動を行い、集団の中で必要な力を身につけられるようにしています。

つくしんぼ教室が初めての家庭以外の集団の場であるお子さんも多く、はじめは不安そうな表情を見ることが多いですが、共感と受容を大切にし、お子さん達の気持ちに寄り添うことで、人に対する安心感や愛着を育むことを目指しています。お子さんやご家族にとって、安心して、楽しく通える場所になるように、職員一同今後とも一層の努力を重ねていきたいと思っております。

児童発達支援管理責任者 石野 裕子

支援スタッフ
から見た!

わが施設の自慢・アピールポイント②9

平成20年度から28回にわたり77の“プチ自慢”をご紹介してきましたこのコーナー。今回は3つの“プチ自慢”です!

いすみ・長生ブロック 社会福祉法人 児童愛護会 長生厚生園

我が園の春の風景

今回、「わが施設の自慢」というタイトルで、自分なりに題材を探してみましたが、他の施設に比べて抜きん出て良い所というのは正直見つからず、同じような施設も沢山あると思いますが、わが施設周辺の春の様子をご紹介したいと思います。

当園は元々山だったところを切り崩して施設を建てたため、八方を杉や竹に囲まれていて、そろそろスギ花粉が春の訪れを知らせてくれます。また筍狩りもできますし、猪の巣も見える場所にあります。字(あざ)が清水作と言われるだけあって、雨の降った後は崖のいたるところから水が浸み出てきます。そこには毎年、トウキョウサンショウウオが産卵場所として利



施設外観



ピロティーにて

用したりもしています。都会にありがちな、パトカーや救急車のサイレンもめったに聞こえてこないような静かな環境の中、利用者の皆さんとひっそりと賑やかに生活しています。

支援課長 秋山 勝昭

印旛・山武ブロック 社会福祉法人大成会 成田市のぞみの園

柔軟な個別支援と作業提供

「成田市のぞみの園」は就労継続支援B型の事業所として、働く意欲がある利用者に対し、個々の障がいの特性や程度に合わせた柔軟な個別支援や作業提供に努めています。

約50名の利用者がそれぞれにやりがいを持って作業に取り組めるよう、受託部門では封入・封かん作業、リサイクル品の回収・整理、清掃など、自主生産部門ではTシャツ等のプリント・刺繍加工(プリント工房)、フレッシュジュースの移動販売(fruit studio)、畑作業を行なっています。プリント工房は地域のお客様のみならず、ホームページを見て県外からもご注文をいただく事もあり、たいへん多くの方にご利用いただいております。また、fruit studioは季節の果物を使ったり、



自主生産部門での作品



働く意欲に笑顔

冬場は温かいメニューなども工夫し、お客様に喜ばれております。これからも業務や活動を通して地域の方々とのつながりを大切にしながら、地域の重要な一員となることを目指していきます。

管理者 鈴木 真希子

安房・君津・市原ブロック 社会福祉法人 嬉泉 袖ヶ浦のびろ学園

ともに過ごし、ともに生きる

のびろ学園は、自閉症児に対する専門療育を行う入所施設です。共生社会をめざし、支援の必要な人の立場に立って共感し、理解し、ふれあうことを大切にしています。

学園の行事では、利用者さんと一緒に行事を作る、楽しむことを意識しています。事前制作の真剣な表情や当日を楽しむ利用者さんの笑顔は私たちの宝物です。

また、食事が美味しいことも自慢のひとつです。利用者さんも毎食お替りをするほどです。栄養士や厨房職員が栄養バランスを考えながら美味しい献立を作成していることや食事を提供するタイミングで盛り付けていることが美味しさの理由です。



袖ヶ浦のびろ学園



施設での行事風景

そして法人では、毎年バザーや祭りを開催しています。地域の皆様のご協力を得ながらこの場を通して、自閉症や私たちの仕事への理解や地域交流を図っています。

児童指導員 古川 雅巳

千葉知協トピックス

スポーツ文化委員会 藤崎 明

第22回 千葉ゆうあいピック駅伝大会

平成31年1月20日(日)、第22回千葉ゆうあいピック駅伝(千葉県知的障害者陸上競技協会等主催、本協会等後援)が千葉県総合スポーツセンター陸上競技場で開催され、61チーム272名の選手が健脚を競いました。

男子のメイン種目、ハーフの部(6区間、18・13km)では、花の第1区にインドネシア・ジャカルタで行われたアジアパラ陸上競技男子1500mで4位に入賞した安西選手が日本代表にふさわしく、号砲とともに先頭に立ち、見るうちに後続を引き離す健脚ぶりをアピールし、ぶっちぎりの区間賞でした。しかし、2区以降は安房特別支援学校Bチームが区間賞をすべて獲得して見事に逆転優勝を果たしました。第2位は安房特別支援学校、第3位はとまりぎJCでした。その他の主な上位の成績は次の通りです。



ゆうあいピック 安西選手 (3-1)

女子クォーターⅡ優勝…安房特別支援学校C、準優勝…ひかりAC。

男子クォーターⅡ優勝…ダイバーシティ、準優勝…八日市場特別支援学校、第3位…流山1年(流山高等学校)。

男子エイスⅡ優勝…県立千葉特別支援学校、準優勝…ふる里学舎千倉B、第3位…ふる里学舎千倉A。

女子エイスⅡ優勝…富里特別支援学校、準優勝…八日市場特別支援学校(2チームのみ)。

壮年男子エイスⅡ優勝…富里福葉苑、準優勝…大久保学園B、第3位…十倉厚生園。

同女子Ⅱ優勝…富里福葉苑(1チームのみ)。成績の詳細は千葉県知的障害者陸上競技協会のHPに掲載されています。
<http://www.makonomikai.or.jp/1Dchiba.htm>

第27回 さわやか芸能発表会

平成30年12月4日(火)、千葉県文化会館(千葉市中央区)にてさわやか芸能発表会を開催しました。今年で27回目を数えました。

舞台発表では、12団体が出演し、舞台発表で最優秀賞を争いました。出演団体はかしの木園



舞台発表最優秀賞 南部よもぎの園

(ダンス)、香取学園瑞穂寮(演劇)、吉沢学園(ダンス・楽器演奏)、市津学園(合唱・リズム体操)、聖家族園(合唱・楽器演奏・演劇)、わかば園(楽器演奏)、ひかり学園(ダンス)、南部よもぎの園(ダンス・楽器演奏)、大久保学園サクシード(楽器演奏)、みちる園(ダンス・楽器演奏)、しもふさ工房(合唱)、オリーブ亥鼻福祉作業所(ダンス)の皆様でした。年々レベルが上がっている舞台発表ですが、今年もハイレベルな競演となりました。厳正な審査の結果、ダンスを発表した南部よもぎの園が見事、最優秀賞を獲得しました。



展示部門最優秀賞 第2ひかり学園

では10団体が出品しました。展示部門も同様に年々レベルが上がってきており、会場の皆様の投票も盛況でした。審査の結果、第2ひかり学園が最優秀賞を獲得しました。次回は本年12月10日(火)開催です。千葉県文化会館でまたお会いしましょう。

事務局便り

事務局長 千日 清

平成天皇ご在位30周年でのおことは。戦争のなかった時代、でも平坦な時代ではなかったと。平成を締めくくり、新しい時代へ。豊かで幸福であるよう、利用者ごと家族、そして職員も。

編集後記

くすのき苑 秋山 直樹

体力の衰えを感じる今日この頃。程よい運動で維持するか、ちよつと頑張つて鍛えるか。とりあえず歩を進めて考えよう。